

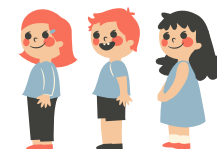
“主体的な学び”をつくる子どもに ～算数科における「見方・考え方」を育てる授業づくり～

本校では、子どもたちが自ら課題を見つけ、考え、解決していく「主体的な学び」を育むための授業づくりに、2年前から学校全体で取り組んでいます。「主体的な学び」とは、子どもたちが自身が問題を認識し、自分で選択・決定しながら解決に向かっていく学習のことです。これを通じて、本校の教育目標である「よく考え 自ら学ぶ子」「自分や友達を大切にする子」「ねばり強くがんばる子」につながることを目指しています。

研究の目的



子どもたちの「問い」を大切にし、一人ひとりの考えをみんなで共有することで、課題に対する「見方・考え方」が広がる授業づくりを目指しています。特に、算数科に焦点を当てて研究を進めています。



これまでの成果と今年度の取組

これまでの研究では、子どもたちから自然と「問い」が生まれるような問題設定の工夫を行い、子どもたちが主体的に課題解決に取り組む姿が見られるようになりました。今年度は、研究の3年目として、「子どもたちの思考が広がる授業づくり」に特に力を入れて深めていきます。そのために、以下の点を重視しています。

①思考の「見える化」と共有

- ・子どもたちが自身の頭の中で考えていることを「見える化」するために、どのようなツールが効果的なのかを検討・検証します。具体例としては、数字・式・図・絵・表・グラフなどが挙げられます。これにより、考えが明確になり、他の友達にも伝わりやすくなります。
- ・「見える化」された思考をみんなで共有する場を設定することで、多様な考え方を知り、自身の「見方・考え方」を広げます。これにより、低学年の児童も含め、全ての児童が共有に参加しやすくなり、多様な考え方が引き出される成果も出ています。

②思考を深める工夫

- ・子どもたちから引き出し、共有された考えを深めるために、板書やICTを活用して思考を整理し、画面の構造化を図ります。表やベン図、Yチャートといった思考ツールを活用したり、教師が「どうしてこう考えたの?」「どこからそう考えたのかな?」といった声かけをしたりすることで、共有された思考を整理し、さらに深く考えていくきっかけを作ります。
- ・教師は、子どもたちの思考を引き出し、整理し、深める「ファシリテーター」としての役割を意識して授業を進めます。



期待される子どもの姿

本研究を通して、子どもたちは自分の考えを積極的に表現し、同時に友達の意見も尊重しながら、共通点や相違点を見出し、より良い方法を選び取ることができるようになります。これにより、自ら進んで学ぶ「主体的に学ぶ子ども」へと成長していくことを目指しています。

研究の進め方

授業研究会、日々の授業実践、教職員間の交流研修を通じて、研究テーマに沿った授業改善に取り組んでいます。子どもたちと教職員へのアンケートや、授業の記録・分析を通じて、研究の成果と課題を検証し、今後の教育活動に活かしていきます。

